

令和6年9月定例教育委員会 会議録

1 日 時 令和6年9月25日(水) 開会15時30分 閉会16時28分

2 場 所 福井市役所別館 大講堂

3 出席者 教育長 吉川 雄二
教育長職務代理者 春木 伸一
教育委員 多田 和博
教育委員 宮郷 美千代

<事務局職員>

教育部長	山本 誠一
少年対策参事官	前田 俊行
教育次長	小倉 敏之
図書館統括館長	西行 裕
教育総務課長	西岡 清隆
学校教育課長	酒井 睦夫
保健給食課長	横山 尚永
生涯学習課長	高比良 博則
文化財保護課長	長谷川 健一
みどり図書館長	村中 徳男
桜木図書館長	竹内 育美
調整参事	名津井 章
教育総務課 副課長	岩上 高広
教育総務課 課長補佐	槇野 克典
教育総務課 主幹	堀井 信也
教育総務課 主幹	平本 一彦

4 議 題

報 告

(1) 9月定例市議会の報告について

(教育部長)

(2) 令和6年度全国学力・学習状況調査

(学校教育課)

その他

部活動及び地域移行の現状と取組について

(保健給食課)

5 議事の経過

(1) 開会

(2) 教育長あいさつ

(3) 会議録署名委員の指名 春木 委員 多田 委員

(4) 議事の要旨

教育長	それでは、報告（１）について９月定例市議会の報告について、事務局の説明をお願いします。
事務局 （教育部長）	９月定例市議会は、９月２日から９月２６日までの２５日間である。 一般質問では、２０名の議員が質問し、教育委員会関係では７名の議員から８つの項目について質問があった。 予算特別委員会では、６会派１５名の委員から質問があり、教育委員会関係では８名の委員より９つの項目の質問があった。 — 以下、９月定例市議会の質疑応答について別冊資料で説明 —
教育長	ただ今の説明について、ご質問等はないか。
多田委員	部活動の地域移行について、エリアコーディネーターが中心となって連絡調整を行っているところがあるが、これは福井市独自のものか、それとも全国的にこういう決まりがあるのか。
事務局 （保健給食課長）	本市の市域が広いことから４名配置しているが、配置していない市町もあり、市域の広さに応じて配置しているものとする。
多田委員	本市は４エリアで４名だが、この配置で充足しているのか。
事務局 （保健給食課長）	１エリア１名で配置しているが、学校数や部活動数も多く、充足とは言い切れない。
教育長	県内の市町では、１人や複数人で全体のコーディネーターを担っている形で配置しているようだが、エリアコーディネーターという形で配置しているのは本市だけである。 全市町が配置しているわけではないが、国では配置しなさいということで予算はついている。
多田委員	県の統合型校務支援システムを「Ｃ４ｔｈ」と言い、本市のシステムはファーストクラスという校務支援システムを使っているということでしょうか。
事務局 （学校教育課長）	県のシステム「Ｃ４ｔｈ」は、子どもたちの成績管理の機能があるが、先生方の勤務や出張の管理の機能がない。 本市は、ファーストクラス、勤怠システム及び緊急連絡システムという３つのシステムを使っている。 「Ｃ４ｔｈ」を導入した場合は、現システムの１０倍の経費がかかるばかりか、今までできたことができなくなってしまうことになる。

多田委員	他の市町も独自のシステムを使っているのか。
事務局 (学校教育課長)	本市と永平寺町以外は、すべて「C4th」を使っている。 現在、先生方の勤務や出張管理の機能や、ファーストクラスにある文書のやり取りの機能を「C4th」に入れれないか県と協議している。
教育長	子どもの成績管理や出席管理は、一つ入れれば全部に連動するのが「C4th」である。出席管理にしても、一つ入力するとそれが通知表にも反映されるし、指導要領にも反映するが、本市のシステムはできない。本市は、その機能だけが欲しいと考えているが、県のシステムからそこだけ切り離すことはできないとのことである。 それならば、本市のシステムを県のシステムに入れてくれないかをお願いをしている。費用は本市500万円に対して県5,000万円と10倍になる話であるので、県から補助が出ないかとの協議もしている。 ただ、来年度から「C4th」が見直されるにあたって、クラウド化するという情報があり、そうなると本市も乗り換えざるを得ないと考えている。
多田委員	精製塩でなく天然塩の方がミネラルを取れるのではないかということだが、天然の塩にも2つあって、越前の塩とか本当の天然の塩は、量も少なくても何十倍もする。しかし、テレビで宣伝しているような伯方の塩などは値段は三倍くらいで量が多くなる。 ミネラルというとカリウムやカルシウムは取れると思うが、鉄分などは煮干しやホウレンソウなどでとる方がコストパフォーマンスの面でもよいのではないか。
教育長	確かに、ミネラルを塩で取らないといけないわけではなく、塩化ナトリウムは塩で取っても、他のミネラルは他の煮干しやホウレンソウで取ることができる。
春木委員	チャレンジ教室は、教育センター的な役割があるので、校内サポートルームに押し付けるのではなく、チャレンジ教室を拡充させることが大事なのではないか。
事務局 (学校教育課長)	チャレンジ教室と校内サポートルームは役割が違う。 今も、校内サポートルームではなくチャレンジ教室に行きたいという子もいるので、学校とよく話し合いをしながら連携をとっていかねばならないと考える。 校内サポートルームができて、チャレンジ教室にいく子が少なくなったことは間違いはないが、今後もチャレンジ教室をなくすわけにはいかない。 今後も、校内サポートルームがいいのかチャレンジ教室がいいのか、その子に応じて対応していかなければならないと考える。 県は、校内サポートルームを増やすと言っているので、増やした結果もみていく必要がある。
教育長	確かに、役割が全然違う。チャレンジ教室は保護者もいっしょになって対応するという形であり小規模の学校と同じで、相談員もしっかりと取り組んでくれているし、子どもた

ちも個別指導を受けながら、集団活動ができる。

校内サポートルームは、フリースクールという言い方もしており、学習を中心にやりなさいという指導はしているが、そこがメインにはなっていないところがある。

支援員の勤務時間が短く、5時間を2日間とか3日間で分けるなどして週25時間やっているのですが、先生方との連携がうまくとれない。先生が話をしたいときには支援員が帰ってしまっているのが、保護者との意見の擦り合わせがうまくできていない。

それも今後の課題である。

ただ、チャレンジ教室をどこまで拡充できるかという、相談員を増やせるかどうかということと、それよりも今の待遇をよくしてあげないと、残業がたくさんあって親の対応をしながら安い賃金でやっているの、そこは充実させたいと考えている。

教育長

ほかにご質問等はないか。

— 質疑なし —

教育長

次に報告（２）令和６年度全国学力・学習状況調査について、事務局の説明をお願いします。

事務局

（学校教育課長）

全国学力・学習状況調査は、４月１８日に実施され、本市の全小中学校が受けている。

国語については、小学校は１４問すべて国の正答率を上回っている。中学校は１５問中１２問、国の正答率を上回っている。

良い点は、小中学校とも本文を読んで心に残ったことやなぜ残ったのかという理由を書き出すようなところが特にできていると分析している。

算数・数学については、小中学校とも１６問すべて国の正答率を上回っている。

特に記述式の問題が、小中学校とも国の正答率を大きく上回っている。本市も含め福井県の子どもたちは、記述式の問題は何か書く、白紙のまま出さないという傾向が見られるようである。

児童生徒質問紙については、「児童生徒に関わること」の「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」が全国を大きく上回っている。

また、気になる点としては、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」というのが全国を下回っており、そう思う割合の本市の経年変化を見ると年々減っていったのが気になる点である。

道徳の時間やあらゆる場面で、いじめは絶対に許せないのだということを伝え続けなければならないと、この質問紙の結果を見て考える。

家庭に関わることについては、放課後や週末の過ごし方に関する質問で、テレビ、ゲーム、動画、SNSが全国同様高くなっている。

クロス集計では、スマートフォンによるSNSや動画の視聴時間と就寝時間、平均正答率との関係を表したものだが、SNSを使っている時間が１時間未満の正答率が一番高く、SNSを使う時間が短いほど成績が良くなっている。

SNSをあまり使いすぎないようにと、学校にもお知らせして指導してもらうこ

とにしている。

学校での学習に関わることは、総合的な学習の時間で、自分で課題を立て、情報を集め整理し、調べたことを発表している児童生徒ほど、「地域や社会のために何かしたい」と考える傾向があることがわかる。

こうした資料を来週にも学校に配布し、指導に活かして欲しいと考えている。

来年度は、４月１７日に実施予定であり、理科が加わり、中学校の理科と質問紙がタブレットで調査されると聞いている。今後徐々に国語や算数などもＣＤＰ化していくものとする。

教育長

ただ今の説明について、ご質問等はないか。

教育長

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」と答える児童生徒が減ってきている理由は話し合われているのか。

事務局

（学校教育課長）

ニュースでの戦争とかの社会情勢も関わっているのではないかという話は出ているが、理由はわからない。

教育長

順調に下がってしまっているが、いじめられる側にも問題があるという気持ちが表れているのならば問題である。

事務局

（学校教育課長）

状況がどうであれ、してはいけないことはしてはいけないのだと、学校には対応してもらわないといけないと考えている。

春木委員

ＳＮＳの視聴時間に係る対策はどうなっているか。

事務局

（学校教育課長）

保護者に学校へ来てもらって、情報モラル教育を行っている。

春木委員

そうした教育の効き目はどうか。

事務局

（学校教育課長）

犯罪に巻き込まれないようにという理解はしても、長時間はよくないことは理解がされにくいようである。

教育長

利用料金や課金などのお金が絡むと保護者も真剣に考えだすようである。

今は小学生でものスマホの保有率はかなり高くなっており、そうした教育は大切である。

事務局

（学校教育課長）

保護者に対しては、幼稚園から小学校へ上がるときにＳＮＳなどに関する話を話す機会をもっている。

教育長

この調査結果は、学校へはどのように説明や指導をするのか。

事務局 (学校教育課長)	10月から第2回目の指導主事訪問があるので、そこで活用していきたい。
教育長	次に、その他の学校教育課の案件について願います。
事務局 (学校教育課長)	— 劇団四季「こころの劇場 福井公演」について、通知を基に案内 —
教育長	次に、保健給食課から、部活動及び地域移行の現状と取組について、説明をお願いします。
事務局 (保健給食課長)	本市の部活動については、国の改革推進期間にあわせ、休日の部活動を行わないことを決定している。 「学校の部活動」を中心に過ごしてきた休日は、地域のスポーツや文化、サークル等のクラブ活動に参加を促すこととしている。 また、生徒自身が行きたい活動を継続しつつ、新たなことにチャレンジできる機会を提供していく。 — 以下、「部活動及び地域移行の現状と取組について」及び「長野市における部活動地域移行の状況」について、資料に基づき説明 —
教育長	10月17日、18日に長野市への行政視察のテーマであり、実際に長野市へ行ってこの内容を基にいろいろと見聞していただくことになる。 長野市の事務局と話し合いの場を持つので、そこで聞いていただくことになるが、この場でのご質問等はないか。
多田委員	長野市の23校は私立が含まれるが、福井市の23校とは私立は入っていないのか。
教育長	県立中や私立中に入っていない。 長野市の場合は、県主導なのかどうか分からないが、福井県はまったく関係していない。 長野市のキッズサイトは、活動している団体を登録しているのだと思うが、どのくらいの団体が登録しているのか把握しているか。
事務局 (保健給食課長)	スポーツについては把握しており、22競技で112クラブが登録している。 ただし、1競技1クラブしかないものも8つある。
教育長	他になければ、その他委員から何かないか。

春木委員	スポーツフェスは大盛況だったが、全国に発信されているのか。
教育長	そこまで周知されていない。昨年度はマスコミも入ったが、今年は小さい記事にはなった程度である。非常に楽しそうにしていた。まだ全国区にはなっていないと考える。
春木委員	新しい市立図書館の利用状況を教えてほしい。
事務局 (図書館統括館長)	5月1日にリニューアルオープンして、1日当たりの利用人数は約2,400人が来館している状況である。 コロナ前の利用には十分戻っている。地域交流センターの方はカウントできないが、それを含めるとかなりの利用者数となる。
教育長	一時期、高校生が占めていて、一般の利用者が利用できないという苦情があった件はどうなったのか。
事務局 (図書館統括館長)	開館したころが、ちょうど高校生の中間テストの時期であり、近くの藤島高校や北陸高校の生徒の利用が多く、一般の方がなかなか座れないということがあった。 そこで、多目的ホールを使用していない時は、学習室として開放するようにしている。
教育長	他になれば、次回の日程について、事務局から願います。
事務局	今回は、10月28日(月)15時から、場所は福井市役所8階 第3委員会室にて開催するのでご出席いただきたい。
教育長	以上をもって会議を終了する。

令和6年10月25日

署名委員 春木 伸一

署名委員 多田 和博

議事録作成職員 平本 一彦